

## 事例報告

# 「進化する図書館ボランティア」

## 筑波大学附属図書館ボランティアについて

筑波大学附属図書館情報管理課専門職員 原澤 仁美

筑波大学附属図書館ボランティアは、平成7年6月に発足し、平成27年で20周年を迎えます。「進化する図書館ボランティア」これはボランティアが自ら掲げたテーマであり、この春刊行予定の記念誌のタイトルでもあります。振り返るだけでなく、更に成長し貢献したいというボランティアの姿と、それを支える図書館の取組みをご紹介します。

### 1. 大学図書館にボランティア誕生

開かれた大学図書館として地域社会との連携を理念の一つとする筑波大学附属図書館は、生涯学習に対応した大学図書館サービスを目的として、地域住民にボランティア活動の機会を提供すべくこの制度を導入しました。平成7年に43名が活動を開始、以来毎年50名前後のボランティアが活動しています。

### 2. ボランティアの登録と活動

ボランティアは活動期間1年間の登録制で、年に1回更新と新規のボランティア募集を行います。平成26年度は53名が登録（男性12名、女性41名）、年齢は50代以上が9割を占めており、導入当初から活動しているボランティアも数名います。

ボランティア活動には、必ず1つ以上担当する必須選択活動と、希望により選ぶ自由選択活動があり、月曜から金曜の10時～13時又は13時～16時に、毎週1回以上活動します。必須選択活動には、「図書館総合案内」「利

用環境整備」「特殊資料整理」、自由選択活動には、「図書館見学案内」「対面朗読」「外国語による図書館利用支援」「日本文化紹介」「広報」などがあります。50数名のボランティアはそれぞれに好きな活動を選び、図書館が準備するシフトに従って活動しています。外国語を生かした留学生への案内や、障害者の利用補助、新入生や高校生への見学案内、図書の修理やシェルフリーディングなど、活躍の場は様々です。体育・芸術図書館では、美術展のポスターを整理しデータベースを構築するというユニークな活動も行っています。



### 3. 組織で支えるボランティア活動

ボランティア活動の陰には、図書館の組織的なサポート体制があります。活動に必要な知識の習得を目的とするフォローアップ研修や、本学教員を講師に招く講演会、学内外の施設見学など、生涯学習型のボランティア活動としても充実しています。また、附属図書館長主催の懇談会や意見交換会などを開催し、ボランティアと職員とのコミュニケーションを図っています。更に、教員と職員で構成するボランティア専門委員会を置き、受入れや

活動の基本方針を審議するなど、きめ細かい支援体制が整っています。

#### 4. 進化する図書館ボランティア

個性豊かなシニア世代が中心のボランティアですが、好奇心や向上心に溢れ利用者へのサービス精神も旺盛です。20年という節目の今、目前に迫る記念行事や、高齢

化、活動の見直しなどの課題への取組みと共に、大学のグローバル化や「障害者差別解消法」の施行など図書館を取り巻く新しい動きにも目を向け、ボランティアと図書館とが一体となって「進化」しようとしています。

筑波大学附属図書館Webサイト(ボランティアのページ)  
<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/ja/about/volunteer>